きこえない人のひとりぼっちをなくそう PROJECT

ひとりぼっち ゼロ PROJECT

ニュース No.81
2026.11.1

プロジェクト企画
人権講演会

国連「手話言語の国際デー」ブルーライトの意味と「憲法」「世界人権宣言」「障害者権利条約」その根底につながるもの



大矢暹さん講演会 参加者88名とともに学びました



2026年9月13日(日)、神戸市婦人会館さくらで開催された講演会はこの日から10日後に控えた9月23日、手話言語の国際デーの話に始まりました。2017 年に世界ろうあ連盟が国連総会に提案し、満場一致で採択され、2018 年から実施されているブルーライトアップについて、ブルーは国連のマークの意味するブルーと深くつながっていること、1951年世界ろうあ連盟が結成された第1回世界ろう者会議でろう者の人権擁護と手話言語権保障・生活の質と社会的地位の向上を決議した最終日が手話言語の国際デーとなったこと、決議の内容は世界人権宣言とも関わりがあること。ブルーライトや手話だけを広めるのでなく、世界ろうあ連盟が決議したことの取り組みを日本でもしっかり進めて行かなくてはならないのではと問題提起されました。また、災害時や社会情勢の課題と「適正距離」について、北九州市の認定NPO法人“希望のまち”の奥田牧師の活動と事業にもなぞらえて話され、「見える距離。おしゃべりができる。食事を一緒にする。」「相手の痛みを想像し共感できる距離。相手が倒れそうになった時、いつでも一歩踏み込んで手を差し延べられる距離。」それが「孤独や孤立をなくす、本当の適正距離。」だと語られました。

【参加者の感想より】

- 法律を作っても実態に添った実効性のあるものにする為にはまず学ぶことが大切であること。改めて大矢さんの見識の深さに尊敬の念を抱きます。
- きっちりした“人権思想”に基づいて活動されていることが伝わりました。すばらしいです。最近の社会の“相手への思いやり”が減少している事への不安、怒りも共感できます。
- 9/23の意味を教わって良かったです。
- いつもの講演とちがい、新しい内容や情報もいただきました。“希望のまち”の運営が始まったら一度行ってみたいです。

わたしの身体はわたしのもの、になったのか？

優生保護法反対運動から考えるSRHR展が9/9～10/1まで兵庫県立美術館で開催されました

SRHRはセクシャル・リプロダクティブ・ヘルツ/ライツ、性と生殖に関する健康と権利のことで、その普及を目指す活動団体と被害者とともに歩む兵庫の会の共催で開かれました。美術館のギャラリーには優生裁判の経過と原告や被害者を紹介するパネルや判決ハタ、そして原告が作った作品の展示があり、期間中は500人を超える来場者がありました。



小林寶二さん喜美子さんの木工と編み物



産めなかった子どもを思い作った勝楽さんの人形



高木賢夫さんの写真

～来場者より～

数々の作品を見ながら、説明文や小林さんや高木さんのメッセージを読むと込み上げてくる物がありました。お人形に込められた思いも伝わって来て何とも言えない気持ちになりました。差別はいけないと改めて思いました。(M)

ホームページ協力者募集！！

ご協力お願いします

ひとりぼっち ゼロ PROJECT のホームページの作成、更新のご協力をいただける方は下記までご連絡をお待ちしています。

＜連絡先＞きこえない人のひとりぼっちをなくそう PROJECT　E-mail：hitoribotch_0(ゼロ)@yahoo.co.jp